

2025年春 竣工予定!



築城せよ！鳥取城復元工事

鳥取城跡は、戦国時代の山城を起源とし、江戸時代には全国約300藩の中で上位12番目の規模を誇る鳥取藩32万石の居城でした。

このことから、鳥取市は鳥取城の姿をわかりやすく伝えるため、大手登城路の復元整備を進めています。2018年に擬宝珠橋、2021年に中ノ御門表門が竣工し、現在は渡櫓門の復元工事を行っています。ゆくゆくは天守に位置付けられていた二ノ丸三階櫓の復元を目指しています。

城内初の2階建て城郭建築

一階を門とし、二階に櫓を備えた中ノ御門渡櫓門は、全高9.2メートル、全幅10.4メートル、奥行4.5メートルにもおよび、城内初の室内空間を持った本格的な城郭建築の復元になります。また、このたびの工事は、伝統技術を駆使するだけではなく、専門家による時代

祝上棟！櫓をあげよ！鳥取城中ノ御門「渡櫓門」の復元

【城内初】ついに2階建ての復元櫓が鳥取城におめみえ

問い合わせ先 鳥取市教育委員会文化財課58番窓口

電話：0857・30・8422

FAX：0857・20・3954

考証・技術指導を重ね、材料の加工方法や仕上がり具合など、細部に至るまで江戸時代の城郭建築の再現に挑んでいます。

格式ある鳥取城の大手門

表門と渡櫓門で構成される中ノ御門は、鳥取城の大手門として1621年に鳥取藩主池田光政によって創建されました。城の玄関口にあたる大手門は城の顔とも言われており、防御の役割だけではなく、大名の石高(規模)に則した格式を備えます。このことから、大手門は城ごとに特徴を持ち、同じものは一つとして存在しません。

明治初期に撮影された鳥取城大手門の古写真をみると、石垣の幅いっぱい表門を構え、両脇の土塀を門の屋根まで立ち上げるなど、他の城に類をみない堅固な造りをしています。また、表門を入れて右に折れた先に写る渡櫓門が切妻屋根を呈していることから、さらなる続櫓の築造計画を想像させます。

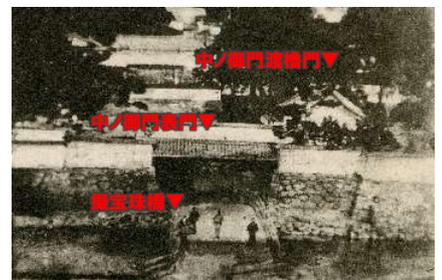
このことから、鳥取城は全盛期の最中に幕末を迎えたことが推察され、大手門の構えから鳥取藩の栄華を偲ぶことができます。

中ノ御門渡櫓門「上棟式」のお知らせ

本年5月より現地工事が始まった渡櫓門の柱・梁の組み立てが完了したことから、以下の期日に上棟式(お披露目式)を行います。みなんでお祝いしましょう。



中ノ御門表門上棟式の様子(2020年)



鳥取城大手登城路の古写真(明治時代初期)

【日にち】2023年7月9日(日)雨天決行

【場所】鳥取県鳥取市東町2丁目 鳥取城跡内

上棟式・式典 10:30~12:00【擬宝珠橋】※一般も参加ができます

丈量博士杭の儀、曳綱の儀※、槌打の儀、散銭散餅の儀ほか

体験イベント 13:00~15:00【久松公園】※工事現場フェンス内

かんな・壁塗り・屋根葺き体験、伝統技術披露、現場見学ほか

鳥取城中ノ御門渡櫓門の復元 CG YouTubeにて動画公開中!



CG製作・提供 戸田建設株式会社